

1 感染症に関する情報の解析及び提供 [管理課]

(1) 京都市感染症情報センターとしての業務

ア 概要

(7) 本市における感染症発生動向調査事業は、昭和 57 年 4 月に、24 感染症を対象に開始された。

昭和 62 年 4 月にはコンピュータ・オンラインシステムが導入され、対象感染症が増加する中、京都市週報を発行するなど、その充実を図りながら、感染症の発生状況の把握と関係医療機関及び行政機関への情報提供を行い、感染症の予防対策の確立に役立ててきた。

(4) 平成 11 年 4 月には、「感染症の発生を予防し、及びそのまん延の防止を図り、もって公衆衛生の向上及び増進を図ること」を目的として、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下「感染症法」という。）が施行された。これに伴い、感染症情報（患者情報、検査情報）を全国規模で迅速に収集、解析、提供、公開するためのコンピュータ・オンラインシステムが再構築され、体制の充実、強化が図られた。

本市においても、地方感染症情報センター機能を担う「京都市感染症情報センター」が衛生公害研究所に設置され、その任に疫学情報部門が当たることとなり、平成 22 年度からは組織変更により衛生環境研究所管理課が担当している。

感染症法は平成 15 年 11 月に改正され、報告の対象とされている感染症が一類から五類までに再分類され、その後、いくつかの変更点に加えられた。

報告の対象とされる感染症は、全数把握対象の一類から五類感染症 78、新型インフルエンザ等感染症 2、指定感染症 1、定点把握対象の五類感染症 26、「感染症法」に基づいて厚生労働省令で定める疑似症 2 の合計 109 疾患となっている（平成 26 年 3 月末現在）。(表 3-1-1)

(7) 全数把握対象感染症は診断した医師から、また、定点把握対象感染症は患者定点（表 3-1-2）に指定された市内の 133 定点から保健センターに届出され、京都市でとりまとめて国に報告している。疑似症は症候群サーベイランスを通じて、鳥インフルエンザ(H5N1)に係る積極的疫学調査の結果は疑い症例調査支援システムを通じて、国に報告される。

また、病原体情報については、病原体定点に指定された市内の 3 医療機関及び保健センターから採取された検体を当研究所（微生物部門）で検査し、国に報告している。

イ 感染症発生動向調査事業実施体制

(7) 感染症発生動向調査事業実施体制の概要は、図 3-1-1 のとおりである。

(4) 情報の提供について

a 週報の発行（全数把握対象感染症とインフルエンザ、小児科、眼科、基幹の各定点より毎週届出される情報）
A4 版 6 ページで構成し、毎週火曜日に発行した。

1 ページ目は、コメント、全数把握対象感染症の概要及び上位定点把握対象感染症の報告数。2 ページ目は、先週との報告数の比較、インフルエンザ又は腸管出血性大腸菌感染症及び上位定点把握対象感染症の発生動向。3 ページ目は、当該週に注目すべき感染症のトピックス。4 ページ目以降は、感染症別に行行政区、年齢階級別報告数及び定点当たり報告数等の詳細情報を掲載したものである。

また、「最新週の集計表及びグラフ」として、「全数把握感染症の類型別月別発生状況一覧表」、「インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ」及び「定点把握五類感染症の集計表（週、疾病別報告数）」を週報発行より早く、毎週木曜日にホームページへ掲載した。

b 月報の発行（性感染症、基幹の各定点より毎月届出される情報）

A4 版 3 ページで構成し、毎月 1 回発行した。

1 ページ目は、性感染症 4 疾患と薬剤耐性菌感染症 4 疾患の発生状況とコメント、2 ページ目以降は、感染症別に行行政区別、年齢階級別報告数及び定点当たり報告数の詳細情報を掲載したものである。

c 病原体検出状況の更新（当該月に微生物部門で検出した病原体情報）

当研究所の微生物部門で、病原体定点から受け付けた検体から検出された病原体情報を、病原体サーベイランスシステムを用いて月ごとにまとめ、「主な病原体(ウイルス・細菌)の採取月別にみた一覧表」として、ホー

平成 20 年度より本市における結核の発生動向について、結核登録者情報システムにより把握されている結核患者情報を用い、年間報告書「京都市の結核」を作成している。

イ 「平成 24 年度 京都市が実施する HIV 抗体検査に係るプレ・ポストカウンセリング報告書」の作成

京都市における HIV 抗体検査は、市内 11 保健センターで希望により性感染症検査（クラミジア、梅毒、淋菌、B 型及び C 型肝炎ウイルス）を同時に行う平日昼間検査、下京保健センターにおいて HIV 抗体検査のみを行い即日結果を返す夜間検査、財団法人京都工場保健会において HIV 抗体検査のみを毎月第 1 及び第 3 土曜日に行う休日検査の体制を整えている。この検査時に受検者が質問票に記入した内容について集計、解析及び報告書の作成を行った。

表 3-1-1 京都市感染症発生動向調査事業の対象感染症（平成 26 年 3 月現在）

1 全数把握対象の一類、二類、三類感染症

感染症の種類	疾病名	対象となる者の状態
一類感染症	(1) エボラ出血熱	患者 疑似症患者 無症状病原体保有者
	(2) クリミア・コンゴ出血熱	
	(3) 痘そう	
	(4) 南米出血熱	
	(5) ペスト	
	(6) マールブルグ病	
	(7) ラッサ熱	
二類感染症	(8) 急性灰白髄炎	患者・無症状病原体保有者
	(9) 結核	患者・無症状病原体保有者 疑似症患者
	(10) ジフテリア	患者・無症状病原体保有者
	(11) 重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る)	患者・無症状病原体保有者 疑似症患者
	(12) 鳥インフルエンザ (H5N1)	患者・無症状病原体保有者 疑似症患者
三類感染症	(13) コレラ	患者 無症状病原体保有者
	(14) 細菌性赤痢	
	(15) 腸管出血性大腸菌感染症	
	(16) 腸チフス	
	(17) パラチフス	

2 全数把握対象の四類感染症

(18) E 型肝炎	(39) 東部ウマ脳炎
(19) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	(40) 鳥インフルエンザ(H5N1 を除く)
(20) A 型肝炎	(41) ニパウイルス感染症
(21) エキノコックス症	(42) 日本紅斑熱

(22) 黄熱	(43) 日本脳炎
(23) オウム病	(44) ハンタウイルス肺症候群
(24) オムスク出血熱	(45) Bウイルス病
(25) 回帰熱	(46) 鼻疽
(26) キャサスル森林病	(47) プルセラ症
(27) Q熱	(48) ベネズエラウマ脳炎
(28) 狂犬病	(49) ヘンドラウイルス感染症
(29) コクシジオイデス症	(50) 発しんチフス
(30) サル痘	(51) ボツリヌス症
(31) 重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。）	(52) マラリア
	(53) 野兎病
(32) 腎症候性出血熱	(54) ライム病
(33) 西部ウマ脳炎	(55) リッサウイルス感染症
(34) ダニ媒介脳炎	(56) リフトバレー熱
(35) 炭疽	(57) 類鼻疽
(36) チクングニア熱	(58) レジオネラ症
(37) つつが虫病	(59) レプトスピラ症
(38) デング熱	(60) ロッキー山紅斑熱

3 全数把握対象の五類感染症

(61) アメーバ赤痢	(70) 侵襲性髄膜炎菌感染症
(62) ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	(71) 侵襲性肺炎球菌感染症
(63) 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）	(72) 先天性風しん症候群
	(73) 梅毒
(64) クリプトスポリジウム症	(74) 破傷風
(65) クロイツフェルト・ヤコブ病	(75) パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(66) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	(76) パンコマイシン耐性腸球菌感染症
(67) 後天性免疫不全症候群	(77) 風しん
(68) ジアルジア症	(78) 麻しん
(69) 侵襲性インフルエンザ菌感染症	

4 全数把握対象の新型インフルエンザ等感染症

(105) 新型インフルエンザ	(106) 再興型インフルエンザ
-----------------	------------------

5 指定感染症

(107) 鳥インフルエンザ（H7N9）	
----------------------	--

全数把握は、すべての医療機関の医師が届出の対象である。

5 定点把握対象の五類感染症

(79) R S ウイルス感染症	(92) 流行性角結膜炎
(80) 咽頭結膜熱	(93) 性器クラミジア感染症
(81) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(94) 性器ヘルペスウイルス感染症
(82) 感染性胃腸炎	(95) 尖圭コンジローマ
(83) 水痘	(96) 淋菌感染症
(84) 手足口病	(97) クラミジア肺炎（オウム病を除く）
(85) 伝染性紅斑	(98) 細菌性髄膜炎
(86) 突発性発しん	(99) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
(87) 百日咳	(100) マイコプラズマ肺炎
(88) ヘルパンギーナ	(101) 無菌性髄膜炎
(89) 流行性耳下腺炎	(102) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(90) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	(103) 薬剤耐性アシネトバクター感染症
(91) 急性出血性結膜炎	(104) 薬剤耐性緑膿菌感染症

6 厚生労働省令で定める疑似症

(108) 摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く）
(109) 発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該疑似症が二類感染症，三類感染症，四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く）

定点把握は、指定届出機関が届出の対象である。

表 3-1-2 京都市感染症発生動向調査事業の行政区別患者定点数（平成 26 年 3 月現在）

	インフルエンザ	小児科	眼科	性感染症	基幹	疑似症
北	7	4	1	1	—	7
上京	5	3	1	1	—	7
左京	7	4	1	1	—	9
中京	5	3	2	2	1	7
東山	3	2	—	1	—	4
山科	7	4	1	1	—	7
下京	3	2	—	1	—	7
南	5	3	—	1	—	7
右京	8	5	1	1	—	11
伏見	11	7	2	2	—	16
西京	7	4	1	1	—	8
合計	68	41	10	13	1	90

- (カ) 平成 25 年 8 月
 - ・と畜検査について [枝肉検査] (食肉検査部門)
 - ・京都市衛生環境研究所にゅーす 平成 25 年度 第 1 号 (管理課)
- (キ) 平成 25 年 9 月
 - ・と畜検査について [枝肉検査] (食肉検査部門)
- (ク) 平成 25 年 10 月
 - ・と畜検査について～精密検査編 (細菌関係) 1～ (食肉検査部門)
- (ケ) 平成 25 年 11 月
 - ・京都市衛生環境研究所にゅーす 平成 25 年度 第 2 号 (管理課)
 - ・と畜検査について～精密検査編 (細菌関係) 2～ (食肉検査部門)
- (コ) 平成 25 年 12 月
 - ・ミートフェア「牛肉の一生～お肉が食卓へ届くまで～」(食肉検査部門)
- (カ) 平成 26 年 1 月
 - ・と畜検査について～精密検査編 (細菌関係) 3～ (食肉検査部門)
 - ・京都市衛生環境研究所年報 第 79 号(平成 24 年度) (管理課)
 - ・大気汚染状況の常時監視について (環境部門)
- (シ) 平成 26 年 2 月
 - ・と畜検査について～精密検査編 (細菌関係) 4～ (食肉検査部門)
- (ス) 平成 26 年 3 月
 - ・京都市衛生環境研究所にゅーす 平成 25 年度 第 3 号 (管理課)
- イ 各カテゴリーの内容
 - (ア) 広報資料・お知らせ
 - ・京都市と京都産業大学による共同シンポジウムの開催について
 - ・京都市府連携「夏休み体験教室 科学の目で見なおそう身の回り」参加者募集について
 - (イ) 新着・トピックス
 - 新規記事を順次掲載
 - (ウ) 衛生環境研究所の紹介
 - ・衛生環境研究所 ホームページへのご意見・ご感想
 - ・リンク集
 - ・京都市衛生環境研究所の所在地
 - (エ) 京都府保健環境研究所との連携
 - ・京都府保健環境研究所と京都市衛生環境研究所の共同化による整備について
 - ・府市行政協働パネル「府保環研と市衛環研の連携のあり方」(第 3 回) の開催について
 - (オ) 発行物等
 - a 京都市衛生環境研究所にゅーす
 - ・消費者コーナーニュース(バックナンバー：平成 12 年度～平成 21 年度)
 - ・京都市衛生環境研究所にゅーす (平成 22～25 年度)
 - b 京都市衛生環境研究所年報
 - ・京都市衛生環境研究所年報 (平成 22～24 年度 (通巻 77～79 号まで))
 - (カ) 京都市感染症情報センター
 - ・感染症情報
 - ・感染症対策トピックス
 - ・発生動向調査
 - ・市民啓発

- ・医療従事者向け京都市感染症情報配信サービス

(キ) 生活衛生

- ・飲用井戸水の全有機炭素(TOC)の依頼検査について[Q&A]
- ・生活衛生便り
- ・生活衛生部門の業務
- ・「ツブ貝, バイ貝」による食中毒予防について
- ・貝毒について
- ・キノコ中毒に注意してください

(ク) 微生物・衛生動物

- ・花粉情報
- ・衛生動物だより
- ・衛生動物の業務
- ・ブユの話
- ・セアカゴケグモ写真集
- ・RS ウイルス感染症について
- ・ノロウイルスによる食中毒及び感染症に注意しましょう
- ・感染性胃腸炎のノロウイルス(Norovirus)について

(ケ) 食肉検査

- ・組織標本の作り方 [第三回] [第四回]
- ・BSE 対策の見直しについて
- ・平成 24 年度 と畜検査概要
- ・と畜検査について [枝肉検査]
- ・と畜検査について～精密検査編(細菌関係) 1～4～
- ・ミートフェア「肉牛の一生～お肉が食卓へ届くまで～」

(コ) 環境

- ・大気汚染状況の常時監視について
- ・光化学スモッグについて
- ・酸性雨について
- ・一般大気環境中のアスベストについて
- ・環境部門の業務

(4) 掲載内容等の見直し

データの更新を定期的に行うとともに、掲載内容の見直しについても、随時行っている。

3 京都市環境情報処理システムの運用 [環境部門]

(1) 目的

市内に配置する大気汚染常時監視測定局における測定データをオンライン、リアルタイム処理により迅速に把握し、市民の健康に影響する緊急事態に適切に対処するため、また、測定データの蓄積、統計処理を的確かつ即応的に行うため「京都市環境情報処理システム」を運用している。

(2) 方法

本システムの概要は、図 3-3-1 に示すとおりである。

各測定局の測定データは、テレメータ子局装置とテレメータ中央局装置(衛生環境研究所に設置)の通信により収集し、操作端末画面に表示させることで大気汚染状況のリアルタイム監視を行っている。

収集データはデータ処理サーバに蓄積し、環境基準適合状況等各種統計処理、出力を行う。

(3) 結果

上記の方法により整備したデータは、環境施策の推進に資するため次のとおり活用している。

- ア 環境省，国立環境研究所等への報告
- イ 大気汚染状況の広報，「京都市の環境」等本市統計資料，市会資料等のための基礎資料
- ウ 大気汚染常時監視測定結果（データブック）作成
- エ 依頼に基づく外部研究機関等へのデータ提供

なお，測定データ（速報値）は京都府及び環境省にオンラインで提供しており，それぞれのホームページで公開されている。

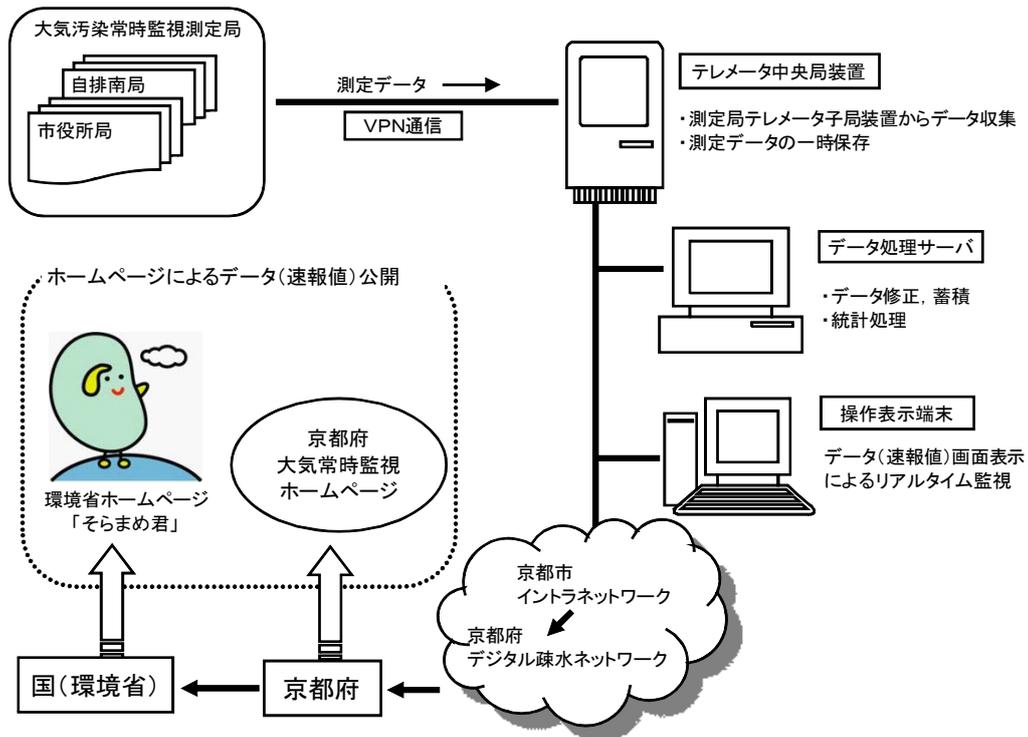


図 3-3-1 京都市環境情報処理システム概念図

4 その他の公衆衛生情報の収集提供 [管理課]

単行本，刊行物（学術雑誌を含む。），各種報告書などを収集・收受し，分類整理して図書室に配架・保管している。平成 25 年度の主な購入雑誌は，次の表のとおりである。

和雑誌（15 種類）	医学のあゆみ，ウイルス，環境新聞，環境と公害，環境パートナーズ，公衆衛生，厚生 の指標，食と健康，食品衛生研究，騒音制御，日本医事新報，日本公衆衛生雑誌，水環 境学会誌，ぶんせき，分析化学
洋雑誌（1 種類）	Journal of AOAC international

